

27年4月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 4月1日～ 27年4月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		27/4月	27/5月	27/6月
伐採動向	スギ	△ 21.4	△ 28.6	△ 21.4
	ヒノキ	△ 30.0	0.0	△ 10.0
	カラマツ	△ 16.7	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 25.0	△ 50.0	50.0
出荷・販売動向	スギ	△ 16.7	△ 8.3	△ 33.3
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 16.7	0.0	33.3
	エゾ・トド	△ 25.0	△ 25.0	25.0
手持立木在庫動向	スギ	16.7	0.0	△ 8.3
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 50.0	25.0	0.0

・スギの伐採は3ヵ月連続して減少、ヒノキは4月の減少が5月は横ばい、6月は減少に、カラマツは4月は減少、5月は横ばい、6月は増加に、エゾ・トドは4月及び5月の減少から6月は増加。

・スギの出荷・販売は3ヶ月連続の減少。ヒノキは4月は減少、5月は横ばい、5月は減少、カラマツは4月の横ばいが5月は横ばい、6月は増加、エゾ・トドは4月及び5月の減少が6月には増加。

・スギの手持立木在庫は4月の増加、5月の横ばい、6月は減少。ヒノキ及びカラマツは3ヶ月連続の減少、エゾ・トドは4月の減少が5月増加、6月横ばい。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・トドマツ伐採は融雪期による入林自粛。
- ・当月はトドマツ間伐を実行、月末からカラマツ間伐を予定、翌月からカラマツ伐採増加。
- ・スギ伐採は落ち着いている。カラマツ不足のため引き合い多い。
- ・バイオマス関連施設整備のため、スギ、ヒノキの伐採量は減少。

(出材・販売動向)

- ・当月はトドマツを販売し、翌月からカラマツを販売予定、各工場の受入制限なし。
- ・カラマツ品不足のため売り足が早い。
- ・品不足のため売り足が早い。スギ、カラマツ共急がず手当てする。

(手持ち立木在庫)

- ・トドマツ生産で立木は減少し、良い物件あれば応札する、月末からカラマツ在庫も減少。
- ・スギ、カラマツ共急がず手当てする。